

富士山の高山帯における蘚苔類植物相

丸尾文乃¹、伊村智^{1,2}、増澤武弘³

¹総研大、²極地研、³静岡大学

The bryophyte flora in the alpine zone of Mt. Fuji

Fumino Maruo¹, Satoshi Imura^{1,2}, Takehiro Masuzawa³

¹SOKENDAI, ²NIPR, ³Shizuoka Univ.

Bryophyte is the key component of vegetation in alpine zone. We investigated the flora and vertical distribution of bryophyte in the alpine zone of Mt. Fuji, the highest mountain with the widest alpine zone in Japan.

The slope at the alpine zone of Mt. Fuji is almost totally covered by scoria, and bryophyte grows mainly at the rocky place scattering in scoria field. Based on 46 specimens collected in 2011, 18 species in 12 genus were identified. Number of species decreased along with the altitude, but was largest at the summit. The severe weather condition at the higher altitude was thought to be the reason for the decrease of the number of species at the slope. On the other hand, the rocky place was wider at the summit area. The various environment in wide rocky place at the summit may offer diverse habitat for many bryophyte species.

蘚苔類は、高山帯植生の重要な構成要素である。本研究では、高山帯に生育する蘚苔類の植物相と垂直分布を把握することを目的として、日本の最高峰であり日本有数の広い高山帯を有する富士山で調査を実施した。

富士山の静岡県側の標高約 2600m の森林限界以上の斜面において、富士宮ルート登山道沿いに標高 200m ごと、および山頂付近において蘚苔類の植物相調査を行い、46 点の標本を得た。形態学的特徴に基づく同定の結果、少なくとも 8 科 12 属 18 種（未同定含め）が確認された。ギンゴケ、ヤノウエノアカゴケのように山頂付近に特異的に出現する種がいくつか確認された一方で、ヤマコスギゴケ、ハリスギゴケのようにどの標高にも広範に確認される種もあった。出現種数は標高が上がるにつれ減少していくが、一転して山頂付近で最高値を示した。

富士山の斜面はほとんどがスコリアで覆われ、蘚苔類はほとんど見られないが、ところどころに点在する岩場が蘚苔類の主な生育地となっている。山頂付近で出現種数が多いのは、比較的安定した生育環境である岩場が多いためと考えられる。さらに、山頂付近に存在していると報告されている永久凍土からの水分の供給があるため、山頂付近は水分環境が良いと考えられる。このため、山頂付近は斜面に比べ蘚苔類の生育に適した環境であり、出現種数が多いと推察される。

現在、さらなる詳細なデータ収集のため、山梨県側の吉田ルートを加え、登山道沿いに標高 100m ごとのサンプリングを行っている。また、富士山では 1950 年と 1970 年に蘚苔類の植物相調査が元名古屋大学名誉教授の故高木典雄博士によって行われている。この過去のデータと現在のデータを比較することにより、富士山高山帯における蘚苔類植物相の時間変化の検出を試みる予定である。